

### ●マイ・タイムラインを作成しましょう

台風が発生してから川の水位が氾濫するまでの備えが『マイ・タイムライン』です。右端の「備えの例」を参考に、ご家族でそれぞれの防災行動について考え、「主な備え」に記入して災害に備えましょう。  
※「氾濫までのおおよその時間」は参考ですので、実際の避難情報に従ってください。

氾濫までのおおよその時間	行政から発信される情報	災害の状況	主な備え(記入欄)	備えの例
3日前	○台風予報 ○台風に関する気象庁発表情報(随時)	台風が発生		○テレビの天気予報を注意 ○今後の台風の情報を調べ始める ○家族全員の今後の予定を確認 ○マイ・タイムラインを確認 ○1週間分の食料を病院に受け取りに行く ○避難時に持っていくものを準備する ○家の周りに落ちて飛ばされるようなものは無い確認
2日前	○大雨注意報・洪水注意報 ○台風に關する今後の見通し ○大雨警報・洪水警報	台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる		○テレビ、ラジオ、インターネット等で雨や川の様子に注意 ○家族全員の今後の予定を再確認 ○自宅付近と土壌の湿度を調べ始める ○ハザードマップで避難場所、避難経路を確認 ○川の水位を調べ始める ○携帯電話の充電 ○通行止め情報がないインターネットで確認
1日前	○大雨警報・洪水警報 ○避難場所の開設準備	雨が集まって、川の水位がだんだん増える		○避難しやすい服装に着替える ○川の水位をインターネットで確認 ○防災行政無線、防災メール等により避難準備・高齢者等避難開始情報の受信 ○指定避難場所への避難を判断 ○川の近くや移動に時間がかかる人は、避難場所への避難を開始 ○川の水位をインターネットで確認 ○防災行政無線、防災メール等により避難開始を受信 ○家族で避難場所への避難を開始 ○避難場所への避難を完了 ○避難場所への移動が危険な場合は、近くの安全な場所や自宅の安全な場所に避難 ○逃げ遅れた場合は、直ちに身近な安全な場所に移動
6時間前	○大雨警報・洪水警報 ○避難場所の開設準備	激しい雨で、川の水位がどんどん増え、河川敷にも水が流れる		
4時間前	○大雨警報・洪水警報 ○避難場所の開設準備			
2時間前	○大雨警報・洪水警報 ○避難場所の開設準備			
0時間	○大雨警報・洪水警報 ○避難場所の開設準備			

### ●土砂災害の種類と前兆現象

土砂災害には、急傾斜地、土石流、地すべりの3種類があります。大雨や地震のときに、次のような前兆現象を確認したら、早めに避難しましょう。

#### ○急傾斜地(がけ崩れ)

地震や大雨・長雨で地面に水がしみ込んで土の抵抗力が弱くなり、突然斜面が崩落する現象をいいます。特に人家の近くで突然発生すると逃げ遅れる人が多く、大きな人的被害をもたらします。

#### ○(渓流からの)土石流

集中豪雨などが引き金となって、多量の土砂や岩石が流水によって津波のように、ものすごい勢いでふもとに向かって襲ってくる現象をいいます。

#### ○地すべり

ゆるいかたむきの斜面で、豪雨や長雨などで地下水が地層にしみ込み、上の層が大きなたまりのますすべり落ちる現象をいいます。

#### ○前兆現象

- がけからの水が濁る。
- がけから小石がばらばらと落ちる。
- がけから木の根が切れる音がする。
- 崩れやすい場所
- がけに亀裂が入っている所
- がけの上部がせり出している所
- 急ながけが高い所

#### ○前兆現象

- 山鳴りや立ち木の裂ける音、石のぶつかりあう音が聞こえる。
- 雨なのに川の水位が下がる。

#### ○前兆現象

- 地面に段差や亀裂がある。
- 水面や井戸の水が濁る。
- 斜面から水が噴出する。

(土砂災害)警戒区域とは・・・  
土砂災害が発生した場合、被災するおそれのある区域のことをいいます。地図上では次のように表示しています。

- 急傾斜地の警戒区域
- 土石流の警戒区域
- 地すべりの警戒区域

(土砂災害)特別警戒区域とは・・・  
土砂災害が発生した場合、建物が損壊し、住民の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれのある区域のことをいいます。地図上では次のように表示しています。

- 特別警戒区域

### 凡例

- 指定避難所兼指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 指定緊急避難場所
- 避難方向
- 消防署
- 消防団
- 医療機関
- 要配慮者利用施設
- 水位観測所
- 臨時ヘリポート
- 鉄道・駅舎
- 国道・県道
- 急傾斜地の警戒区域
- 土石流の警戒区域
- 地すべりの警戒区域
- 特別警戒区域
- 家屋倒壊危険区域(河岸浸食)
- 家屋倒壊危険区域(氾濫流)

### ●想定される浸水深

大北川・花園川の氾濫を想定した浸水深です。

- 5.0~10.0m未満の区域
- 3.0~5.0m未満の区域
- 0.5~3.0m未満の区域
- 0.0~0.5m未満の区域
- 浸水想定の実施範囲

※想定した降雨は、流域全体の48時間雨量805mm、ピーク時の1時間雨量109mmです。

### ●災害への備え

#### ◎危険箇所・指定緊急避難場所の確認

自宅や職場付近で想定されている浸水深、土砂災害警戒区域の有無、最寄りの指定緊急避難場所をこのハザードマップで確認しましょう。

#### ◎避難経路の確認

自宅から最寄りの指定緊急避難場所への移動経路を決め、実際に歩いて移動時間を確認しましょう。また、浸水想定区域、土砂災害警戒区域、大きな崖、川、水路などのそばを避けるように移動経路を決めておきましょう。

#### ◎避難時持ち出し品の確認

日頃から避難時に持ち出す品を準備しておき、緊急時にはすぐに避難できる準備を整えておきましょう。

#### ◎避難行動要支援者登録制度への登録

高齢者などの世帯、障害者の方、避難の支援が必要な方は、市の避難行動要支援者登録制度に登録しておきましょう。(北茨城市 社会福祉課)

### ●災害時の情報収集

大雨の際は、気象情報や防災情報を収集しましょう。市は次の手段で防災情報を発信しますので、ふだんから複数の手段を用意しておきましょう。

#### 防災行政無線

屋外スピーカーを通じて緊急情報をお知らせします。

#### 広報車・消防団

緊急時は、広報車等で市内を巡回放送します。

#### 自動電話応答サービス

防災行政無線の放送内容を電話で確認できます。  
☎ 43-3110

#### 市ホームページ

緊急連絡や避難所などをホームページに掲載します。  
(http://www.city.kitabaraki.lg.jp/)

#### 全国瞬時警報システム(J-ALERT)

市では、国が発信する緊急避難や必要とする警報等を防災行政無線を使って自動で放送する全国瞬時警報システムJ-ALERT(ジェイ・アラート)を運用しています。

#### 緊急速報メール

避難勧告の発令など緊急度の高い情報を、市内に存在する携帯電話(ドコモ、AU、ソフトバンクの対応機種のみ)に一斉送信します。

#### 災害時情報共有システム(L-ALERT)

市では、安全・安心に関わる公的情報を住民に迅速かつ確実に届ける緊急警報L-ALERT(エル・アラート)を運用しています。  
住民の皆様はテレビ、ラジオ、携帯電話、ポータルサイト等の様々なメディアで情報入手できます。

#### 防災メール

あらかじめ登録した携帯電話へ、防災行政無線の放送内容を配信します。  
右のQRコード又は下記のアドレスに空メールを送信して登録しましょう。  
bousai.kitabaraki-city@raidan.ktaiwork.jp

### ●避難情報

緊急度	種類	とるべき行動	主な判断材料	
			洪水(大北川・花園川)	土砂災害
高い	避難準備・避難開始	避難に時間を要する方(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は立退き避難を開始 その他の方は避難の準備	避難判断水位に達し、さらに水位が上昇	大雨警報が発表され、さらに土砂災害警戒情報の発表の可能性あり
	避難勧告	速やかに立退き避難を開始 ※外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所や自宅内より安全な場所へ移動	氾濫危険水位に達し、さらに水位が上昇	土砂災害警戒情報が発表
	避難指示(緊急)	まだ避難していない人は、すぐに立退き避難を開始	計画高水位に達し、さらに水位が上昇	土砂災害警戒情報に加えて記録的短時間大雨情報が発表

#### ●避難確保計画を作成しましょう!

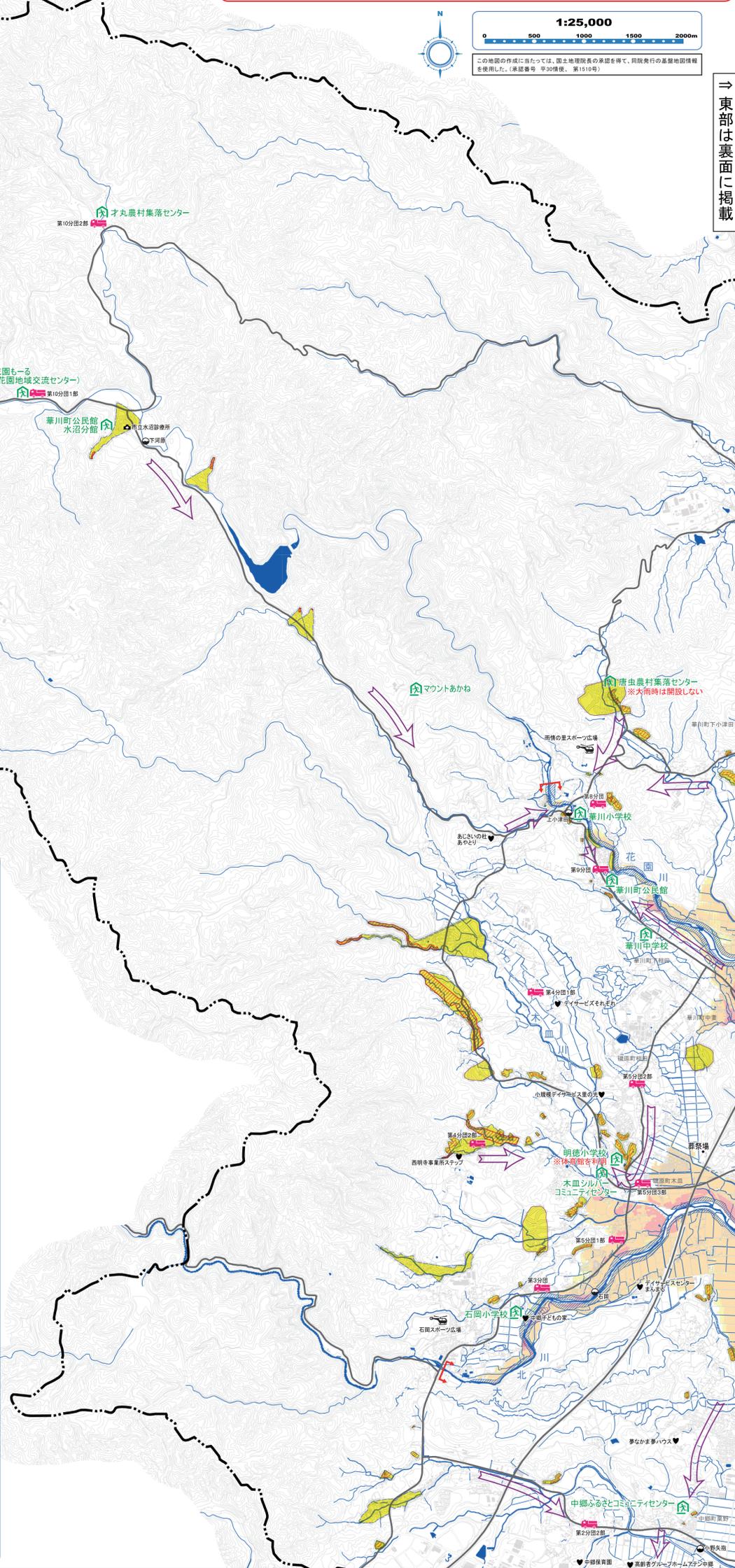
浸水想定区域や土砂災害警戒区域にかかると要配慮者利用施設(福祉施設、医療機関など)は、避難確保計画(施設利用者を迅速に避難させるための対応計画)の作成と訓練が義務化されました。該当する施設の管理者の方は計画を作成して市に報告してください。

#### ●雨量・河川情報

1時間の雨量が25mmを超え、河川水位が「氾濫注意水位」を超えるときは特に注意しましょう。  
◆茨城県土木部雨量・河川水位情報  
(http://www.kasen.pref.ibaraki.jp)

#### ●河川水位の基準

- 計画高水位 (堤防が洪水に耐えられる最高水位)
- 氾濫危険水位 (一般住民が避難を始める水位)
- 避難判断水位 (高齢者等が避難を始める水位)
- 氾濫注意水位 (水防団が活動する水位)
- 警戒水位 (河川が氾濫する危険な水位)



→ 東部は裏面に掲載